食品ロス削減の推進　～2026年度進捗管理（2025年度実績）～

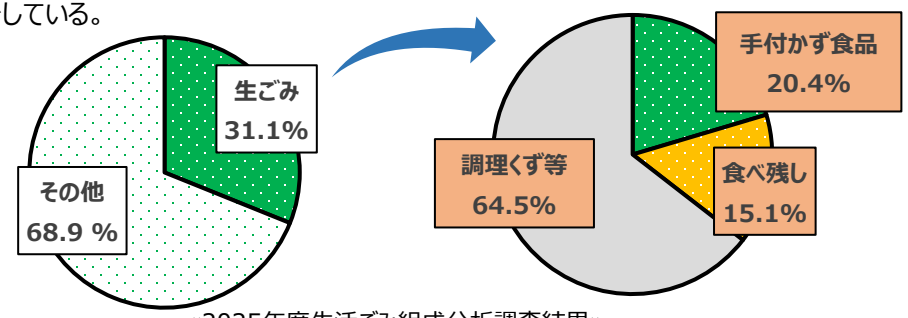
資料3

■背景・目的

・2021年3月に改定した「堺市一般廃棄物処理基本計画」において、「食品ロスの削減の推進に関する法律」の規定に基づき、本市の食品ロス削減推進計画として位置付ける施策として「食品ロス削減の推進」を新たに策定した。2026年3月に改定した同計画においても、「食品ロス削減に向けた取組」を策定し、食品ロス削減に向けた取組を重点的に推進している。
・「食品ロスの削減」はごみの減量に大きく貢献することから、取組を効率的・効果的に推進するために進捗管理を毎年度行うこととした。

■食品ロスの現況①【家庭系食品ロス】

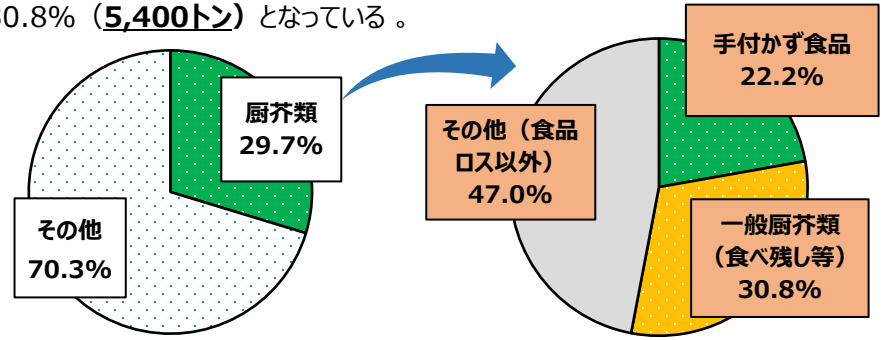
生活ごみ（**128,400トン**）の31.1%が生ごみで、そのうち「手付かず食品」20.4%（**8,100トン**）、「食べ残し」が15.1%（**6,000トン**）となっている。前回の2023年度調査より生ごみの割合は増加となったが、「手付かず食品」と「食べ残し」の割合は減少している。



«2025年度生活ごみ組成分析調査結果»

■食品ロスの現況②【事業系食品ロス】

事業系ごみ全体の29.7%が厨芥類であり、そのうち「手付かず食品（作り置き、売れ残り、鮮度低下等）」が22.2%（**3,900トン**）、「一般厨芥類（食べ残し等）」が30.8%（**5,400トン**）となっている 。



«2024年度事業系一般廃棄物排出実態調査結果»

■評価指標と現況の比較

本市では、国の目標を踏まえ、2019年度実績を基準として2030年度の評価指標を下表のとおり設定している。

2025年度の食品ロス量は、家庭系食品ロス量が14,184t（うち、手付かず食品8,138t、食べ残し6,046t）であり、2030年度目標を既に達成している。一方、事業系食品ロス量は9,257tであり、ごみ総排出量の増加に伴い、前年度から微増した。

	2019年度	2025年度（現況※）		2030年度（最終年度）
家庭系食品ロス量	19,626t	**14,184t**		14,900t
		手付かず食品	食べ残し	
		8,138t	**6,046t**	
事業系食品ロス量	11,203t	**9,257t**		7,500t
合計	30,829t	**23,441t**		22,400t

※2025年度のごみ排出量に各調査結果（組成率）を乗じて算出

■2025年度取組実績

【家庭系食品ロス削減に関する取組】

・食品ロスダイアリーキャンペーンの実施（参加者45人）
・食品ロス削減啓発動画およびデータの放映（パネル展2回、デジタルサイネージ22回）
・パネル展示の実施（本庁舎4回）
・食品ロス出前講座の実施（受講者15人）
・エコレシピコンテスト学生部門の開催
・レシピ投稿・検索サイト「クックパッド」へのレシピ掲載（掲載数16品）
・食品ロス削減推進サポーター育成オンライン講座の実施（受講者13人）
・食品ロス削減をテーマとしたイベントの開催（参加者256人）

【事業系食品ロス削減に関する取組】

・フードシェアリングサービス「TABETE」の推進（新規登録店舗数5店舗）
・食品ロス削減に取り組むエコショップの拡大（新規登録店舗数4店舗）
・食べきり協力店制度の啓発および登録店舗の拡充（新規登録店舗数3店舗）
・食べきり協力店へのメールマガジン配信（26事業者）
・食べきり協力店における4Rピクトグラム三角柱POPの設置（75店舗）
・食品スーパーでのてまえどりPOP掲示（9事業者　49店舗）

«てまえどりPOP»



